

植田川の生き物と水環境

1 植田川の概要

植田川は、長久手市を源として名東区・天白区を流れ、天白川へと合流する、延長約9.1kmの河川です。

流域の大部分は丘陵地で、塚ノ杵池や牧野池をはじめとした多くのため池が点在しています。

また、名古屋の東の玄関口である東名高速道路・名古屋インターチェンジが開設された頃から、周辺では土地の区画整理事業が盛んに進められてきました。



道明橋付近



焼山橋付近

2 植田川の生き物

植田川では、2022年度に調査を行った結果、計14種の魚類が見つかりました。

ミナミメダカやタモロコなどの貴重な生き物が確認されています。

ブルーギルなどの特定外来生物が確認されており、生態系への影響が懸念されます。

- ★：名古屋市の絶滅危惧種
- ▲：特定外来生物
- ：魚が確認された区間

魚種	焼山橋より下流	焼山橋より上流
★ナマズ, ★ミナミメダカ, モツゴ, ヨシノボリ属		■
★タモロコ, コイ, フナ属, オイカワ, ▲カダヤシ, ▲ブルーギル	■	■
★ウキゴリ, カマツカ, ボラ, カムルチー	■	
種類数	10	10



★ウキゴリ



★タモロコ



オス



オス



メス



メス



モツゴ



▲ブルーギル

★ミナミメダカ

オイカワ

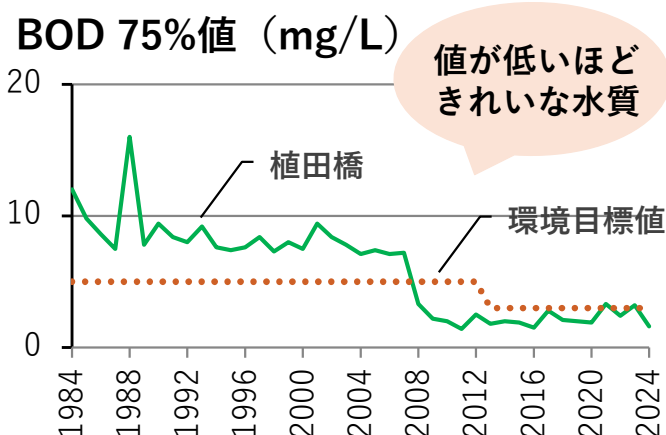
3 植田川の水質

植田川流域では、市街化の進展に伴い、家庭からの生活排水や事業排水が増加し、それらが直接植田川へ流れ込んでいたため、川の水は汚れていました。

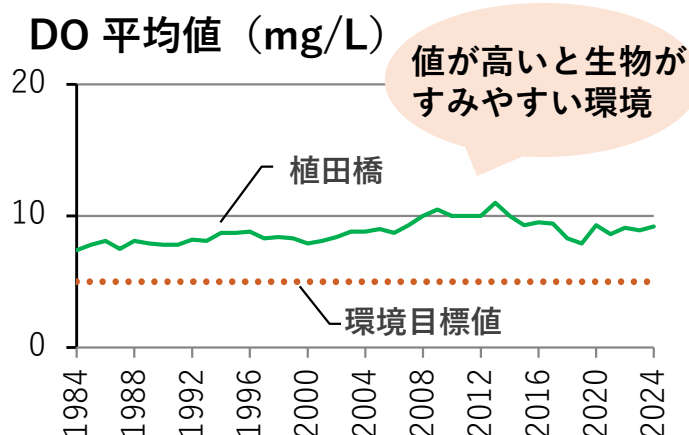
その後、下水道の整備・普及が進んだことで、生活排水などが直接川に流れ込むことがなくなり、水質は徐々に改善してきました。さらに、西山水処理センターでは窒素やリンを取り除く高度処理が導入され（2010年3月に本格稼働）、BODの値が改善しています。

植田川では、川底を中心に水草や藻類が多く生育しており、これらが日中に光合成を行うことで、水中に溶けている酸素（DO）が高くなる傾向があります。

◆ 水質（BOD,DO）の経年変化



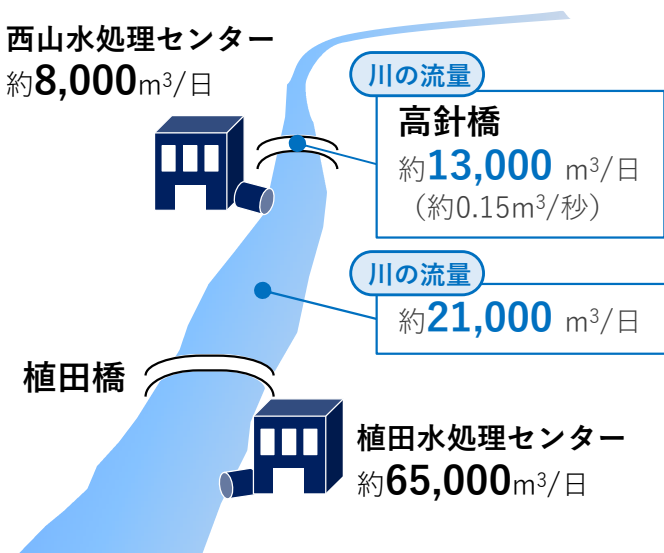
環境目標値：(1974年～)5mg/L以下, (2005年～)3mg/L以下



環境目標値：(1974年～)5mg/L以上, (2005年～)3mg/L以上

4 植田川の流量

植田川の主な水源は、西山水処理センターや植田水処理センターの放流水です。西山水処理センターより上流では、晴天時に水深が約15cmまで低下することがあり、水深・水量ともに十分ではありません。そのため、晴天時の流量の確保が課題となっています。



◆ 月別平均流量 (m3/s)

